



い き い き

小 富 士 っ 子



R 6 学校便り No16

令和 6. 1 2. 1 0

四国中央市立
小富士小学校

ゆく年くる年

2024 年も 12 月に入り、最後の月になりました。時が過ぎるのは本当に速いものです。振り返ってみると、2024 年は、元日に能登半島地震が起こり、弔いから始まる新年になりました。能登半島においては、9 月にも豪雨で甚大な被害を受けております。先月、教頭先生が石川県金沢市で開催された研修会に参加しました。その際に能登半島の復興状況を視察する予定でしたので、どんな様子だったかを聞いてみると、「無理をすれば行けないこともなかったが、道路の状態も悪かったので視察は諦めた。」「現在の現地の写真を見ると、戦争直後の写真で見た風景とまるで同じようだった。」との返答でした。復興どころか復旧もままならない状態であることを知り、改めて心を痛めています。何かできる支援などないか考えてみたいと思います。さて、1995 年に始まった「今年の漢字」が、12 月 12 日に発表されます。1995 年は阪神淡路大震災が起こった年だったこともあり、初めての年の「今年の漢字」の第一位は「震」でした。漢字自体の持つイメージが良くない「災」の字も、実は二度「今年の漢字」の第一位に選ばれています。ひょっとすると、2025 年の「今年の漢字」には「震」や「災」が上位に選ばれることが考えられます。被災された方々にとっては、辛い記憶を呼び起こす漢字かもしれませんが、災害の恐ろしさを認識し、防災意識を高く保つために、「震」や「災」を「今年の漢字」に選ぶことは、歴史に記憶を刻み、風化させないという点でも重要だと考えます。また、「震」や「災」といった漢字を選ぶ背景には、「災い転じて福となす」といった願いがあったのではないのでしょうか。ちなみに「今年の漢字」で、第一位に 4 度も選ばれている漢字があります。それは「金」という字で、2000 年、2012 年、2016 年、2021 年に選ばれています。それらの年に共通しているのは、全てオリンピックイヤーということです。今年もオリンピックイヤーであり、金メダルラッシュに日本中が沸き立ち、とりわけ被災地の皆さんには勇気や元気を与えました。それから、今年は裏金問題や増税、減税など、お金に関わる出来事の多い年でもありましたから、「金」の字も「今年の漢字」の上位に選ばれるのではないかと思います。悪いこともありました、良いこともいっぱいある一年でした。皆さんも「今年の漢字」を考えながら、自分の一年を振り返ってみてはいかがでしょうか。私は還暦を迎え、役職定年の年に「初心に還ろう」と思ったことから、やはり「還」かなと考えました。正月に双六をすとして、「ふりだしにもどる」はがっかりしますが、人生では「ふりだしにもどる」も意外と楽しいかもしれません。私にとって 2 回目の 60 年（そんなに長生きできない？）のスタートになる 2025 年を良い年にしたいと思ひます。そういえば、新語・流行語大賞は「ふてほど」で、初めて聞いた言葉が大賞でした。調べてみると「不適切にもほどがある！（ドラマのタイトル）」の略称なのだそうですが、どうもしっくりきません。私は「名言が残せなかった」が、トップテンの中では一番親近感があって好きです。名言を残さずとも、北口選手の金メダルを決めた一投は記憶に残っています。結局、オリンピックの話題に還ってきましたので、締めくくりに一言、「せめて『今年の漢字』は、オリンピックにちなんで『金』がいいなあ。」

